

（東北地域の10年後のありたい経済社会の姿（修正案））

第1回懇談会における御意見を踏まえ、「東北地域の10年後のありたい経済社会の姿」について、次ページのとおり修正しました。主な修正点は以下のとおりです。

- ◆ **新たな情報技術を活用して、新たな経済活動を志向し、「どんなときも」挑戦し続ける地域（適応力）**
 - ・ 変革や革新の原動力との一つとして、「スタートアップ」を明示し、それらが次々と立ち上げる地域を目指すとした。
- ◆ **いち早くグリーン社会を実現し、「いつまでも」内発的に成長・発展し続ける地域（持続可能性）**
 - ・ 東北地域が、再生可能エネルギーの供給のみならず、日本全体のグリーン社会実現のための知（技術やノウハウ）の供給源となる地域を目指すとした。
 - ・ 豊かな自然と調和した暮らし、家族やコミュニティの強い絆など東北ならではの特性を活かしながら、人口減少に適応しつつ、どんなまちの規模でも内発的に成長・発展し続ける地域を目指すとした。

東北地域の10年後のありたい経済社会の姿（修正案）

復興の経験を活かし、日本中、世界中の「だれとでも」つながって、新たな価値を共創する地域（連携力）

- 復興過程で蓄積された資産（※）を活かし、地域内外の様々な企業、組織、人材がそれぞれの能力やノウハウを持ち寄り、新たな価値共創を実現することで、未来志向の取組が次々と萌芽する地域を目指す。（※）復興道路や研究開発拠点等とはもとより、関係人口や中間支援組織、人材育成プログラム等の共創インフラ等も含む）

新たな情報技術を活用して、新たな経済活動を志向し、「どんなときも」挑戦し続ける地域（適応力）

- 不確実性の高い世の中においても、企業や地域におけるデジタル技術の実装を促すことで、地域内外の人・モノ・カネ・情報等がデジタル技術で繋がり、付加価値や生産性の向上に向けた変革（トランスフォーメーション）や革新（イノベーション）が生まれ、**またそれらの原動力ともなるスタートアップが次々と立ち上がる**地域を目指す。

多様な関わりしろを提供し、「どこからでも」自分らしく関わり、活躍することができる地域（関係力）

- 人口減少に起因する担い手不足等の課題解決に向け、コロナ禍を契機とした地方への関心等を捉まえつつ、東北の豊富な地域資源（食、観光、伝統技術等）や特色のある産業・文化を活かした多様な関わりしろを提供することで、多様な人材が多様な形で関わり続けられる地域を目指す。

いち早くグリーン社会を実現し、「いつまでも」**内発的**に成長・発展し続ける地域（持続可能性）

- 高いポテンシャルを有する再生可能エネルギー関連の取組を推進するなど、**産学官**一体となってグリーン社会を実現し、**その技術やノウハウを国内に還元するとともに、豊かな自然と調和した暮らし、家族やコミュニティの強い絆など東北ならではの特性を活かしながら、人口減少に適応しつつ、どんなまちの規模でも内発的に成長・発展し続ける**地域を目指す。